

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒、保護者、教職員が「みんなの大手前 みんなが大手前」と誇れる学校づくりをめざす。

- 1 生徒のニーズや学力に沿ったきめ細かい授業を展開し、自己実現のサポート体制を充実させる。
- 2 幅広い年齢層や多様な価値観を持つ生徒が、「入って良かった。」と実感できる学校づくりを推進する。
- 3 現代社会を生き抜いていくための基本的な資質や能力を備え、社会の一員として自立した生活を営むことのできる力を養う。

2 中期的目標

1 生徒各自が持つ学力の最大限の伸長

(1) 生徒の自己実現を促進するための取組み

- ・落ち着いた学習に臨めるための環境整備と規律指導
- ・少人数授業や必要に応じた抽出授業による、「授業がわかった」、「授業が楽しい」「力を伸ばし、成長できた」と生徒が思う授業づくりの推進
- ・生徒のニーズ、実態に沿った基礎学力及び進学のための学力を身に付けさせる個別指導の実施
- ・T-NET、外国語外部指導員等の活用による生徒の英語コミュニケーション力の向上

(2) 生徒の学力の正確な把握

- ・適性検査や基礎学力テスト等による生徒各自が持つ潜在的な能力の発掘と適確な個別指導の展開
- ※数学基本力調査 漢字検定（自作）日本語テスト の実施

2 生徒各自に必要な支援を行える体制づくり（スクールソーシャルワークの組織的体制の充実）

(1) 個に応じた支援体制の強化に向けた取組み

- ・新入生の情報の収集及び中学校との連携強化による支援方針の検討
- ※特別な配慮が必要な入学予定生の出身中学校や福祉機関と連絡を取り、情報共有する。（H30：特別な配慮が必要な生徒の出身中学校・福祉機関と連絡を取り合い、情報共有）
- ・全教職員の生徒情報を共有するシステムの充実と細やかな指導による卒業率の向上
- ※卒業率を少しでも向上させる。（H30 年度 3年コース 0名/0名、4年コース 18名/20名 計90%）
- H31 年度目標：87%、2020 年度目標：89%、2021 年度目標：92%

(2) 校内支援組織の整備と充実

- ・校内支援委員会の機能充実
- SSW 同席による校内支援委員会を年間 10 回実施する。
- ※支援委員会における個別生徒の状況観察（Observe）、状況判断（Orient）、支援計画の立案・意思決定（Decide）、実践（Act）、の OODA ループを確立する。
- ・SSW 活動の推進
- ※専門家と生徒、保護者、学校との連携による個別支援計画の立案・実践・検証
- ※SC、SSW、CC との連携を強化する。SC、SSW、CC 同席によるケース会議を年間 1 回以上実施する。
- ※関西大学臨床心理専門職大学院生との連携による生徒支援、大阪大学教職課程「総合演習」受講者の実習受け入れを継続する。
- ※職業適性検査等の有効活用について、各学年と進路指導部が協議・検討する。
- ※ハローワークや若者サポートステーション等との連携。サポートステーション主催の連絡会議に出席し、情報共有する。

3 キャリア教育と人権教育の充実

(1) 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育・人権教育の計画の実践

- ・就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みの充実
- ※学校斡旋就職内定率（H30：9/9名 3月）100%を維持する。
- ・卒業後の生活設計を考えた、生徒個々の進路指導の充実
- ※進路未決定率（H30：16.7% 3月）を少しでも減少させる。
- ・人権教育推進委員会の活性化と人権ホームルームの計画・実施
- ・社会人基礎力の養成

4 学校力の向上

(1) 組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進

- ・教職員研修の充実（年間 6 回以上実施）
- ・教職員相互による研修を積極的に推進し、教職員同士で学びあうシステムの推進
- ※研究授業のあり方を検討する。
- ・専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化
- ※定時制高校相互の授業実践見学や情報共有、他校の先進事例等の研究を推進する。
- ・静かな教育環境の保持及び学校生活のマナーについての意識高揚を図るための組織的な指導体制の構築
- ※教員相互の指導体制の平準化を図る。
- ・教職員が丸となって教育活動に関わる学校組織の構築
- ・地域との連携による防災活動の推進

(2) いきいきとした学校生活を送るための環境整備

- ・部活動の活性化（H30：1月現在 入部率 63.5%）H31 年度目標：64.5%、2020 年度目標：65.5%、2021 年度目標：66.5%
- ・保護者との連携強化
- ・将来の学校像について中・長期的なビジョンを持って企画調整委員会で検討する。
- ・広報活動の活性化（学校案内パンフレットと学校ホームページの有効活用、外部説明会への参加）

5 ICT を活用した校務の効率化と授業での有効活用

(1) 校務の効率化による生徒と向き合う時間の確保

- ・生徒情報の共有化を正確かつ容易にするためのシステムづくりの推進
- ※円滑な新校務処理システム運用
- ※ICT 機器を使った授業についての研究（視覚教材の活用を推進）

府立大手前高等学校 定時制の課程

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>回収率 (在籍数 72 名 教員 19 人) 保護者 21.0% (H30 25.4%) 生徒 68.0% (H30 77.3%) 教員 100%(H30 100%)</p> <p>●生徒の評価が高い項目 (「よくあてはまる」 + 「ややあてはまる」 合計)</p> <p>○生徒「教え方に工夫をしている先生が多い」 87.5 % (H30 94.7%) 保護者「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」 83% (H30 58%) 教職員「生徒の学習意欲に応じて、学習指導方法や内容について工夫している」 100% (H30 100%) 教職員「教職員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」 88.9 % (H30 82.4%)</p> <p>○生徒「授業などでコンピュータやプロジェクターが活用される機会がよくある」 91.7% (H30 91.2%) 保護者 (該当項目なし) 教職員「コンピュータ等の ICT 機器が、授業などで活用されている」 94.7% (H30 94.1%)</p> <p>○生徒「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」 90.9% (H30 89.1%) 保護者「学校はいじめについて子どもが困っていること (疑いも含む) があれば真剣 に対応してくれる (予想も含む)」 93% (H30 89 %) 教職員「いじめ (疑いも含む) が起こった際の体制が整っており、迅速に対応するこ とができています」 94.4% (H30 100%)</p> <p>○生徒「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 89.1% (H30 91.1%) 保護者 (該当項目なし) 教職員「この学校では生徒の話をよく聞いて丁寧な生徒指導を行っている」 94.7% (H30 100%)</p> <p>○生徒「生徒のプライバシーは守られている」 91.5% (H30 94.7%) 保護者 (該当項目なし) 教職員「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立さ れている」 100% (H30 88.2%)</p> <p>●生徒の肯定的意見が多い項目としては、①「授業での工夫・指導法の改善」に関する もの、②「相談体制の充実・プライバシー保護」に関するものが挙げられる。①に 関しては、昨年度より保護者の授業に関する満足度が格段に高い。これは、教員が 保護者に対して授業の情報提供を行っているためだと考えられる。 ②に関しては、本校が従前から実施してきたスクールカウンセラー (SC)、スクール ソーシャルワーカー (SSW)、進路コンサルタント (CC) との連携によるきめ細やかな相 談体制が、盤石のものとなってきたといえるであろう。</p> <p>●生徒の評価が相対的に低いもの</p> <p>○「部活動に積極的に取り組んでいる」 63.6% (H30 66.7%)</p> <p>さまざまな生活背景や時間的な制約がある中で、それでも一定数の生徒が部活動に勤 しみ、バドミントン部や科学部などが対外的な成果を上げている。中には複数のクラ ブを掛け持ちする生徒も存在する。今後いっそう、部活動や様々な学校行事を通して、 自己有用感や学校生活での充実感を高めていく必要を感じている。</p> <p>また、極端に低い数値とはいえないものの、 「学校に行くのが楽しい」 (R1 65.3 % H30 75.9 %) 「自分が学校に来ていることは意味があると思う」 (R1 81.3% H30 87.7%) といった項目が、昨年度と比較して数値が低下している。さまざまな課題を抱え、悩 み葛藤しながら学校生活を送っている生徒達に寄り添いながら、よりいっそうきめ細 やかなサポートができるように、関係諸機関等とも連携を図っていきたい。</p> <p>また、保護者の自己診断回収率については、対在籍生徒数に対しては、21%であるが 成人生徒が 3 分の 1 在籍していることを勘案して対保護者数に対して割合をだすと回 収率は、63%である。評価も昨年度と比較すると高くなっている。 ○保護者「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。」 (R1 80.0% H30 74.0%) ○保護者「進路指導面で学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」 (R1 93% H30 89%) 数値上昇の理由として考えられることの一つに今年度の参観、行事等への保護者参加 者が増えていることがあげられる。 ○保護者「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」 (R1 67% H30 58%)</p>	<p>第 1 回 学校運営協議会 (令和元年 7 月 5 日 (金)) 協議内容・承認事項等 (意見の概要)</p> <p>◎着任挨拶</p> <p>◎平成 31 年度学校経営計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い取組みをしている。さらにそれを広報活動してはどうか。 ・生徒募集に際して地域の中学校の集まりに出向き説明してはどうか。 ・卒業生を母校中学校に出向かせてはどうか。 ・大手前に行けばどんな成長をするのかをもう少し見えるようにしてはどうか。 ・大手前で楽しく学校に通えているということをもっと中学校にわかるようにして はどうか。 →学校が居場所となり就職を決めて卒業していることをもっと中学に広報して いきたい。 →今年の 1 年生は「中学校新卒」すぐで入学する生徒が倍増した。本校入学後、 出席状況がよく、皆勤の生徒もいる。 ・就職指導を CC と連携して丁寧に行っている学校であることは大事なことだと思う。 →新たな取組みも入れながら進路指導をしている。 →SSW、SC、CC の有効活用をますます進めて生徒の生活環境を安定させる。 ・地域と連携して防災活動を推進していることは貴重。平時に十分な話し合いが重要。 →全日制との連携も課題となっているので今後取り組んでいく。 →避難所開設に際しては学校再開も見据えて適切な運用をする。 ・阪大教職課程学生、関大臨床心理院生の効果的活用は学校として助かっているの ではないかと思う。 <p>◎教科書選定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見はとくになし <p>第 2 回 学校運営協議会 (令和元年 11 月 20 日 (金)) 協議内容・承認事項等 (意見の概要)</p> <p>◎授業公開週間での授業見学 (各委員の感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像など ICT 機器を使った授業は、生徒にとっては面白い授業だと思う。生徒は 聞いてないように見えて聞いていた。そういう方法もいいと思った。 ・生徒が集中して前を向いて聞いている。会話のキャッチボールがいい。授業の中 での小さな成功体験を積み重ねることができているのでとてもいいと思う。 ・中学時代と違い自立して学習していた。成長を感じた。 <p>◎修学旅行報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が定時制教員だった頃、呼びかけて参加させた。行ってみないとその良 さはわからないケースが多い。 ・中学校夜間学級でも修学旅行を実施しているが、それ自体が本当に必要か見直し も考えている。現在は 3 年に一度行っている。行けば成果はあるが、費用面、 参加者数が課題である。 <p>◎前期授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全て低い評価をする者がいるなど正しく評価していると思えないケースもあり、 分母が少ないので正確なのか疑問がある。 <p>第 3 回 学校運営協議会 (令和年 2 月 7 日 (金)) 協議内容・承認事項等 (意見の概要)</p> <p>◎令和元年度学校評価 (案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生等による生徒の支援は重要である。 ・日本語指導を必要とする生徒の入学に備え支援体制を整えていく必要が出てく ると思われる。 ・中学校までで不登校の生徒であっても、大手前では自己実現できている例があ るので、一定支援体制ができていていると思われる。 <p>◎令和 2 年度学校経営計画 (案) の基本的方針 (めざす学校像・中期的目標)</p> <p>承認された。</p> <p>◎後期授業アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価の数値が前期に比べて上昇している。(学校説明) <p>◎学校教育自己診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の意見で図書館活用についての低さが見えるが、何か工夫があると思う。 ・定時制の特性から何が重要かと考えると、図書館活用の順番は高くないのでは ないか。 ・計画では支援について重要とされているのに、自己診断の項目では支援につい ての質問がないように思われるので項目の見直しも視野に入れてほしい。

府立大手前高等学校 定時制の課程

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒各自が持つ学力の最大限の伸長	<p>(1) 生徒の自己実現を促進するための取組み</p> <p>ア 社会で必要とされる学力を身につけるための教育活動の工夫</p> <p>(2) 生徒の学力の正確な把握</p> <p>イ 生徒の潜在能力の発掘と適確な個別指導の徹底</p>	<p>ア 落ち着いた学習環境で学べるようにするため、全教員で授業中の規律指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数授業を行い、「授業がわかった」、「授業が楽しい」「力を伸ばし成長できた」と生徒が思う授業づくりに努める。 生徒のニーズ、実態に沿った基礎学力及び進学のための学力を身に付けさせるため、個別指導を実施する。 外国人外部講師の活用によりコミュニケーション力のさらなる向上を図る。スピーキングテストを実施し、「話す力」のより一層の育成に努める。 視覚教材を活用した、魅力的でわかりやすい授業実践を進める。ICT 機器等を効果的に用いた主体的・対話的で深い学びの場を構築する。 教科の枠を越えた「コラボ授業」等、より柔軟な発想で、主体的・対話的で深い授業の在り方を研究し、実践する。(パッケージ研修支援Ⅲを継続活用) 新学習指導要領について理解を深め、新教育課程に向けて移行準備を滞りなく進める。 <p>イ 適性検査の実施について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校独自の数学基本力調査や漢字検定(自作)により、生徒の能力の適確な把握に努める。 	<p>ア 「授業アンケート」における「授業内容に興味・関心を持つことができている」、「授業中は集中して先生の話聞いて学習に取り組んでいる。」の肯定率85%以上を維持する。</p> <p>(H30:「興味・関心」86.1% 「授業中集中…」90.0%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国語外部講師に関する授業アンケートにおいて授業満足度90%を目標とする。(H30:92%) スピーキングテストの実施回数(各学年1回) <p>・生徒の状況に応じて個別補講・講習等を実施する。</p> <p>・学校教育自己診断における①「教え方に工夫している先生が多い」(生徒)、②「生徒の学習意欲に応じて学習指導方法や内容について工夫している」(教員)の各項目の肯定的意見95%以上を維持する。(H30:①94.7%、②100%)</p> <p>・学校教育自己診断における「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」(保護者)の項目の肯定的意見65%以上をめざす。(H30:58%)</p> <p>・保護者向け自己診断の回収率を上げるため、学校ホームページ等を活用し呼びかけを行う。</p> <p>・パッケージ研修支援Ⅲ等を活用した学習会を実施し、教育課程委員会を中心に新課程の検討を進める(必要な場合には小委員会を設置する)。</p> <p>イ 各学年と進路指導部で適性検査等の有効活用について協議・検討し、必要に応じて検査を実施する。</p> <p>・各種基礎学力検査等の結果データの蓄積及び分析による、生徒個別の学力傾向の把握</p>	<p>ア 授業づくりに取り組み、生徒の肯定率を維持できた。</p> <p>「興味・関心」85%(○) 「授業中集中…」87%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国語外部講師90%(○) 各学年1回(○) <p>・個別補講・講習は、教科によって実施回数は異なるが必要な生徒に対して実施し、進路実現につながった(○)</p> <p>「教え方に工夫」(生徒)の数値が下がっている①87.%ので生徒に伝わる工夫が必要である。(△)一方、教員は「工夫している」②100%と答えている(○)このギャップを埋めることが課題である。</p> <p>・「授業が楽しくわかりやすいと言っている」(保護者)は、83%と昨年度を大きく上回った。(◎)</p> <p>・回収の呼びかけを行った結果、対保護者数に対して回収率は、63%となり昨年40%を上回った。(◎)</p> <p>・9/17、11/27に学習会を実施し 新課程における授業のあり方の検討を行った。(○)</p> <p>イ 各学年とも適性検査を実施することとし、2年、3年、4年で実施済み(○)</p> <p>・以下の基礎学力検査を実施して新入生の傾向を把握した。 国語科:学校独自の漢字検定。 数学科:新入生に対し、毎年同一の基礎的な問題を解かせ、その年の指導の重点を決定している。</p>
2 生徒各自に必要な支援を	<p>(1) 個に応じた支援体制の強化に向けた取組み</p> <p>ア 生徒情報の収集と実態把握</p> <p>イ 個人情報集約化と情報の共有</p> <p>(2) 生徒支援組織の充実</p> <p>ウ 校内生徒支援委員会の機能充実</p> <p>エ 生徒相談活動の機能充実</p>	<p>ア 合格時点から新入生の情報を収集するとともに、中学校との連携を強化し、必要な支援方策を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教職員が生徒の情報を共有し、個別支援により卒業生数を増加させる。 長欠生徒に対して定期的に連絡をとり、在学意志の確認等、状況把握に努める。 <p>イ 「高校生活支援カード」や共</p>	<p>ア 特別な配慮が必要な生徒の出身中学校や福祉関連施設等を訪問し、情報共有する。 生徒一人一人を丁寧に支援する本校のSSW活動を中学校へ広報する。学校案内パンフレット、学校ホームページを積極的に活用するとともに、外部での説明の機会を生かし、定時制を必要とする人たちへの周知をはかる。</p>	<p>ア、新入生すべての生徒について聞き取りを行い、情報共有を行った。(◎)</p> <p>中学校訪問、学校説明会の機会に加えて近隣各市の適応指導教室へ本校のSSW活動の組み等について広報を行い、本校の特長を伝えた。学校ホームページについても定期的な更新して本校の魅力を発信した。(◎)</p>

府立大手前高等学校 定時制の課程

<p>行える体制づくり</p>	<p>オ スクールソーシャルワーク (SSW) 活動を組織的に活性化させる。</p> <p>カ いじめ防止に向けた取組みの推進</p>	<p>有フォルダ等を活用し情報の集約化を図る。</p> <p>ウ 校内支援委員会の機能をさらに充実させ、SC、SSW とのケース会議により生徒の進路プランニングを行う。 支援委員会における個別生徒の状況観察 (Observe)、状況判断 (Orient)、支援計画の立案・意思決定 (Decide)、実践 (Act)、の OODA ループを確立する。</p> <p>エ 生徒が気軽に相談できる場所作り。保健室、SC、関西大学臨床心理専門大学院と連携した相談体制の整備。 ・大阪大学教職課程「総合演習」受講者の受け入れによる生徒支援活動の継続。</p> <p>オ 生徒の個別支援計画を作成し卒業後の自立を支援する。 ・ 学校生活において自己有用感を高め、自覚的に行動できるスキルを高めるために、アサーション・トレーニングやコミュニケーションスキル向上を目的としたワーク等を実施する。</p> <p>カ 人権教育推進委員会において、組織的にいじめアンケート結果の集約及び分析を行う。 ・府の「いじめ防止基本方針」改訂を受けて、校内の同方針について改訂を行う。 ・必要に応じて、いじめ対策に関する教職員研修を行い、教職員のスキル向上に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業率を向上させる。 H30：3年次生 0名/0名 4年次生 18名/20名 中退率を前年度から少しでも減少させる。 H30：2名/77名 (3月) 3% 全校生徒の出席率を前年度より向上させる。 H30：月平均 70.6~84.76% (3月) <p>イ 学校教育自己診断の評価の3つの項目を前年度より少しでも向上させる。 A「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる」 (H30:86.0%) B「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 (H30:90.1%) C「学校に行くのが楽しい」 (H30:75.9%)</p> <p>ウ ケース会議を月例で開催し、プランニングを実現する。 SSW と教員でアウトリーチを含めた行動を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員のスキル向上のため、SSW、SC、CC 同席による教職員研修(ケース会議)を実施する。(H30:1回実施) <p>エ 生徒の相談件数と教員アンケート肯定率の向上 H30 (3月) :保健室 705件自主来室 (3月) 関大院生活動実績 111件 教員アンケート (関大院生) 73.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月の大阪大学でのガイダンスで准校長がプレゼンを行い、受入れ学生10名を確保する。 <p>オ 特別支援の生徒の個別の教育支援計画をできるだけ早期に始め、4年間を見通したライフプランが作成できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を有効に活用しながら、SSW を介して、福祉制度の活用と関係諸機関との連携を深める。 コミュニケーションスキル向上のためのワーク実施回数を維持する。 H30：2回 (関西大学臨床心理専門大学院生による) <p>カ 学校教育自己診断の評価の項目を前年度より少しでも向上・維持させる。 「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」 (生徒) (H30:89.1%) を向上させる。 「いじめ (疑いも含む) が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」 (教職員) (H30:100%) を維持する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業率は同率だが、3年で卒業する生徒が増加した。(○) 3年次生 4名/4名 4年次生 14名/16名 中退率を前年度から少しでも減少させる。 4名/72名 (△) 6% 全校生徒の出席率を前年度より向上させる。 月平均 80% (3月) (△) <p>イ 担任以外の相談機会について伝える工夫が必要である。 A「担任の先生以外相談」 77.3% (△) B「悩みや相談に親身に」 89.1% (△) C「学校に行くのが楽しい」 65.3% (△)</p> <p>ウ ケース会議で作成したプランニングに基づき、SSW と教員で関係諸機関に出向きアウトリーチを含めた行動を実践して生徒の生活環境改善に努めた。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> SSW、SC、CC による教職員研修を3回実施して教職員のスキルが向上した。(◎) <p>エ 生徒の相談件数と教員アンケート肯定率が向上した。(◎) (3月) :保健室 871件自主来室 (3月) 関大院生活動実績 120件 教員アンケート (関大院生) 75%</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪大学の実習受入れ学生の申込が10名を上回り、その内10名に学校実習をお願いし、行事等の助力を得た。(○) <p>オ 4年間を見通したライフプランの作成ができて、生徒支援に役立てている (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係諸機関への情報共有を SSW を介して推進した。機関から講師を招いて教員研修を開催するなど、緊密に連携できたため生徒への支援が充実した (◎) 2回 (関西大学臨床心理専門大学院生による) (○) <p>カ 「先生はいじめなど…」 (生徒) (R1:90.9%) (○) 「いじめ (疑いも含む) が」 (教職員) (R1:94.4%) (△) 本年度もいじめの発生はなかった。</p>
	<p>(1) 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育・人権教育の計画の策定</p> <p>ア 外部機関、キャリアコンサルタント (CC) との連携強化</p> <p>イ 障がいのある生徒等の進路指導の確立</p>	<p>ア CC や SSW と連携しながら、ハローワークや若者サポートステーション、障がい者就業・生活支援センター等と連携した就労指導のスキルを向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に 	<p>ア 学校斡旋就職希望者の内定率 100%を維持する。 (H30:9人内定/9人希望 100%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部機関との連携を図り、進路未定者数の減少に努める。(進路未決定率 H30:16.7% 3月) キャリア・コンサルタント (CC) の活用 	<p>ア 100%を維持 (○) 5人内定/5人希望 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路未決定率 16% キャリア・カウンセラー (CC)

府立大手前高等学校 定時制の課程

<p>3 キャリア教育と人権教育の充実</p>	<p>ウ 進路ホームルームの計画的運用 エ 企業・保護者との連携・情報共有 オ 人権教育推進委員会の活性化 人権ホームルームの計画・実施</p>	<p>関する取組みを充実させる。</p> <p>イ 支援教育サポート校からの支援を受けて、障がいのある生徒の就労について、校内支援スキルを向上させる。</p> <p>ウ 進路 HR の年間計画を各学年ごとに作成し、計画的に運用する。</p> <p>エ 企業・保護者との連携、情報共有を進める。 ・ 中小企業家同友会との連携による職場体験、インターンシップを推進する。 ・ 中小企業家同友会と教職員による情報交換会を実施する。 ・ 保護者に学校での指導の様子を知らせ、協力を呼びかけるため、「進路だより」を発行する。 ・ 「保護者とともに進路を考える会」を実施し、生徒や保護者との個別相談会を行う。 ・ 障がい者施設や障がい者雇用事業所との連携・情報交換を実施する。</p> <p>オ 人権教育推進委員会を活性化させ、本校において系統立てた人権ホームルームができるよう、準備を進める。 ・ 教職員のスキル向上のため、人権教育推進委員会企画のもと、教職員向け人権研修を実施する。 ・ 生徒向けの人権講習会（外部講師の招へいも含む）を実施する。</p>	<p>ハローワーク、若者サポートステーションとの連携を継続・発展させる。</p> <p>・ 就労意識の向上を目的にアルバイト経験を勧め、職業体験の積極的な活用を推進する。</p> <p>イ 各学年の進路 HR や進路講演会、個別面談等を通じて就労へ結びつける指導を推進する。</p> <p>・ 生徒のコミュニケーションスキルを向上させるためのワークショップやキャリア教育関係の講話を実施する。</p> <p>ウ 各学年の進路 HR を年間3回以上実施する。 (卒業予定生は20回実施) (H30: 1年5回、2年4回、3年4回、4年20回)</p> <p>エ 積極的に呼び掛け、「保護者とともに進路を考える会」出席者数の増加をめざす。 (H28: 24名 H30: 8名 H30: 5名) 保護者が参加しやすい時期・曜日・時間帯について再検討する。 会の実施連絡を周知徹底し(学校ホームページも活用)、保護者・生徒のニーズに合致したコンテンツを用意して、より一層有意義な内容にする。 ・ 「進路だより」年間5回発行(郵送、ホームページにアップして周知)</p> <p>オ 教職員向け人権研修を実施する。 ・ 生徒向け人権講習会を実施する。</p>	<p>の活用、ハローワーク、若者サポートステーションとの連携を継続・発展させた。加えて商工労働部の事業を新規活用して就労指導ができた。(◎)</p> <p>・ 今年度アルバイトを始めた生徒15人(◎)</p> <p>イ 生徒に個別に寄り添いながら就労へ結びつけることができた。(○)</p> <p>・ 実施内容: 1年コミュニケーションスキルワークショップ2回開催。 キャリア教育関係では全学年で卒業生講話を実施した。(○)</p> <p>ウ 各学年の進路 HR (◎) 1年6回、2年6回、3年5回、4年24回</p> <p>エ 「保護者とともに進路を考える会」は、全体会として行う方法から個別の相談会へ実施方法を変更して、効果を上げた。10人に個別懇談を実施した。(○)</p> <p>・ 「進路だより」年間5回発行(郵送、ホームページにアップ)(○)</p> <p>オ 教職員向け人権研修を実施。 2/13(○) ・ 生徒向け人権講習会を実施。 12/24(○)</p>
<p>4 学校力の向上</p>	<p>(1) 組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進 ア 教職員研修の充実 イ 教職員相互による研修を積極的に推進し、教職員同士で学びあうシステムの構築 ウ 専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化 エ 教職員が一丸となって教育活動に関わる学校組織の構築 (2) いきいきとした学校生活を送るための環境整備 オ 部活動の活性化 カ 保護者との連携強化 キ 企画調整委員会の活性化 (校内の諸課題を継続的に検討)</p>	<p>ア 教職員研修の系統立てた実施計画を策定する。</p> <p>イ 研究授業週間の一層の充実を図る。 ・ 教科の枠を超えた他教科との「コラボ授業」などの新しい試みを模索・実践する。 ・ パッケージ研修支援Ⅲに継続して取組み、全校をあげて授業改善に努める。</p> <p>ウ 関西大学臨床心理学専門職大学院等外部機関との連携を強化し、生徒の適性に沿った指導体制を強化する。また、定時制高校相互の授業実践見学や情報共有を積極的に行い、他校の先進事例等の研究を推進する。</p> <p>エ 静かな教育環境の維持及び携帯電話や学校生活のマナーについての意識高揚を図るため、組織的な指導体制を構築する。</p> <p>オ 部活動の活性化により、生徒自らが学校生活に充実感を持てる</p>	<p>ア メンタルケア、ICTを活用した先進的な授業実践、新学習指導要領、人権課題等、多様なテーマによる教職員研修を実施する。</p> <p>イ 興味ある授業づくりを推進するため研究授業・研修会を年間2回以上実施する(パッケージ研修支援制度Ⅲを活用)。</p> <p>ウ 関西大学院生による生徒のメンタルサポート事業アンケート(教員向け)を実施し肯定率を少しでも向上させることを目標とする。 (H30: 73.3%)</p> <p>エ 生徒指導件数をめやすに学校マナーの徹底を図る。 (懲戒件数 0件をめざす。)</p>	<p>ア スクールカウンセラーによる発達障がいについての研修1回、ICTを活用した先進的な授業実践の全体研修3回、人権関係の研修1回、SSWによる研修2回、キャリアカウンセラーによる研修1回、防災関係(避難所開設訓練・防災士による講話)1回、保健関係(薬物乱用防止)1回、服務(個人情報適正管理)1回を行った。 (研修合計回数 12回)(◎)</p> <p>イ パッケージ研修支援Ⅲにかかわる研究授業及び研究協議を3回実施した。(◎)</p> <p>ウ 75%(○)</p> <p>エ 懲戒件数2件(△)</p> <p>オ 部活動の奨励</p>

府立大手前高等学校 定時制の課程

	<p>ク 広報活動の活性化（学校案内パンフレットと学校ホームページの有効活用）</p> <p>ケ 地域との連携による防災活動の推進</p>	<p>環境を整備する。</p> <p>カ 「保護者とともに進路を考える会」を実施する。保護者に学校での指導の様子を知らせ、協力を呼びかけるため、「進路だより」を発行する。</p> <p>キ 企画調整委員会で 従来の指導の在り方や行事への取組み方を見直し、生徒のニーズと現状に合った内容を継続的に検討する。また、志願者数減少の分析と教員数の減少に伴う校内組織の再構築の検討を行い、分掌等組織体制のスリム化、教職員間の業務負担平準化、および学校力の向上を図る。</p> <p>ク 本校の SSW 活動の取組みや ICT を効果的に活用した授業実践、落ち着いた学習環境の実現等について、積極的に外部にアピールし、志願者の増加につなげる。そのため、学校案内パンフレットと学校ホームページを最大限に活用し、新入生等の卒業中学校への訪問を通じて中学校との連携を密にし、本校での取組みについて周知を図る。また、外部での説明の機会を積極的に活用する。</p> <p>ケ 学校防災アドバイザー派遣事業を活用し、防災教育実践委員会を継続開催し、夏季に定時制と地域自治会の共催による災害時避難所実習を実施する。 ・全日制と連携しながら、災害時の対応についてマニュアルを完成させる。</p>	<p>オ 部活動の奨励 (H30 入部率：63.5%) (3月)</p> <p>カ 「保護者とともに進路を考える会」・個別相談会の実施 (再掲) 「進路だより」年間5回発行（郵送、ホームページにアップして周知）</p> <p>キ 指導の在り方、行事への取組み方、各種委員会の統廃合について企画調整委員会で継続・検討する。</p> <p>ク 学校案内パンフレット及び学校ホームページの有効活用（広報・ホームページ委員会主導による、ホームページの定期的更新） 広報・HP 委員会を定期開催（4月・8月・1月・3月）し、各部署に原稿を依頼して、月1回 HP の更新を行う。</p> <p>広報活動 地区中高連絡会、大阪市立定時制進学説明会、中小企業家同友会との懇談会、枚方市引きこもり等子ども若者相談支援センターや夜間中学校での学校説明の機会を活用する。</p> <p>・志願者数の増加 H31:14名（1次:14、2次:0） H30:20名（1次:19・2次:1）</p> <p>ケ 防災教育実践委員会の定期的な開催 H31年7～8月の災害時避難所実習開催</p>	<p>入部率： 50%（3月）(△)</p> <p>カ 再掲（3の（1）エ）</p> <p>キ 行事への取組み方を検討した結果、行事の精選を行った。 (○)</p> <p>ク 学校案内パンフレットを合同説明会や中高連絡協議会等で配布、学校ホームページ URL を定時制専用に変更しブログを開設し月3回以上更新を行い広報に努めた (◎)</p> <p>広報活動先が増加した (◎) ①進学フェア ②夜間中学校向けの説明会 11/21 ③大阪市立定時制高校進学説明会 11/19 中学校教員対象 ④出身中学校訪問・説明会 ⑤第3地区中高連携協議会 12/10④近隣市適応指導教室訪問 1/10、1/29</p> <p>・志願者数の増加 R1:13名（1次:12、2次:1） (△)</p> <p>ケ 定期的に開催し以下を実施した。(◎) ・7/16 北大江地区との連携による災害時避難所開設実習。 ・12/16 教職員向け防災講演を本校全日制と合同開催。 ・11/30 校内にある防災備蓄物資倉庫を北大江地区と連携して整理。・11月に防災アドバイザーによる教職員向け講演および生徒向け防災教育を実施。 ・学校防災アドバイザー派遣事業を活用し、全日制と連携し合同で防災講演会を実施した。</p>
5 ICTを活用した校務の効率化	<p>(1)校務の効率化による教員の生徒と向き合う時間の確保</p> <p>ア 生徒情報の共有化を正確かつ容易にするためのシステムづくりの推進</p> <p>イ ICT機器を使った授業についての研究・教材開発(パッケージ研修支援制度の有効活用)</p>	<p>ア ICT 委員会の機能強化と情報セキュリティの整備充実を図るとともに、円滑に校務処理システムを運用する。</p> <p>イ タブレット型 PC、プロジェクター、書画カメラ等の ICT 機器の活用による教材開発と授業実践。 教材等の共有化により、教職員の負担軽減をはかる。</p>	<p>ア 校務処理システムが正常に稼働しているか教務部が定期的に点検を行う。 ・ICT 委員会が ICT 機器の管理・点検を行い、トラブル等の窓口となるとともに、府教庁対応を担う。</p> <p>イ パッケージ研修支援制度を活用し、ICT 機器を使った公開授業を今年度中に1回以上実施する。 ・他校の先進的な公開授業等を見学し、定時制にあった教材を作成する。 (タブレット型 PC, プレゼンテーションソフト、書画カメラ、プロジェクター等の活用)</p>	<p>ア 定期点検を実施した。(○)</p> <p>・ICT 委員会によりネットワーク更新が適切に行われた (○)</p> <p>イ 2回実施。(◎) 情報 9/12 英語 11/18</p> <p>・他校の先進的な公開授業等を見学 11/11、2/14 し、本校定時制にあった教材を作成した。(◎)</p>